

松川半山著
画

小學引
人體問答

全



9
8
986

一本

K110
4:3

B 18

2357



松川半山著并画

小學 人體問答 畫引

浪華 二書堂發兌

画引人體問答

松川半山著并画

例言

人己が身ハ父母ヨリ受得タル骨肉ニシテ疎牙害イ儀ラ
ザルヲ孝ノ道ト懐フハ宜ナレ共抑其受エタル我五體四
肢五臟六腑ノ其機關ノ作用ノ細密ナル我身ナガラモ不
思儀ナル者ナリ故ニ其理ヲ辨事セズンバ人ト生レタル
ノ詮ナシ此書身體ノ表部名義内部諸臟腑ノ主トル所ノ
其大略ヲ述テ童蒙ニ諭サント欲ス然レバ生徒ノ輩之ヲ
熟讀ナスニ於ハ頗ル小學ニ入ルノ階梯トモナリ且自然
己が身ヲ自愛ナシ堅固ニ行ヒ天壽ヲ保ツニ至ラズ是即
チ父母ヘノ孝ト言ザランヤ務メズンバアル可ラズ

○第五章

五臟 六腑 肝 心 脾 肺 腎 大腸 小腸 胃
 膀胱 三焦 膽

○第六章

五官 視官 聽官 味官 鼻官 觸官 五體 筋
 脈 肉 骨 皮 毛 九竅 身体要害 動脈 精神
 肌 脣 血

○本文ノ附假名▲此印アルハ音ナリ
 印ナキハ訓ナリ

画引人體問答

○第一章

松川半山著并画

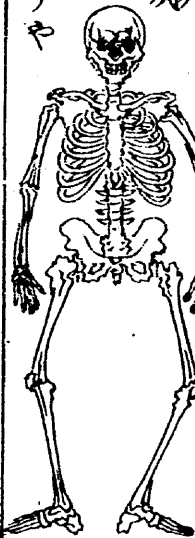
人 ヒト ハ天地の間み於て如何ある者なりや
 委しく養りよ



ハ萬物の靈 ハジモノツレイ みて動物 ドブツ の上み位 カミイラ ゐ

して其体の組織細密にして智力 チリヨク ヒトノカラダ カラダ 人 ジン 体 タイ の組織細密 キンミツ あり其部分 ソノブン の名称も多 オホク


あるべし其カシラホ子ハ幾數何ヤツンホ子と組織て出
 表部の上ハ頭骨りヤ八骨来ともの
 ありの

ヒトノカラダホ子カヅハ幾
人体ノ骨數 何
 △ジンタイ コツスウウ ありや



二百八骨 別と多クハ
 あり最も齒ハ
 齒ハ何枚何
 ありや


上下合してカシラハ何程の
 三十二枚
頭 部分あり
 あり

毛髮 カミノケ
 △モウハツ

ありて頭腦
 覆ひより
髮 生ぜ毛を
 あり

頂 上部あり
 あり

いふ
 あり
腦 ハ頂の中ハ藏する所ハ
 して一身の精神此ニ
 あり
頭蓋 ハ腦を
 覆ふ外
 あり

いふ
 あり

顔 何程の部
 ありや
額 ハ顔の
 正面より上

毛の髮際よ
 での間と
 いふあり

耳 ハ顛顛の下左
 右ニ突出する
 ものあり
耳垂 タダブ
 スイ



ハ耳の下端
といふ

耳門

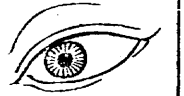
ハ音聲と聴
とめの穴

顛

顛
カミハ顛の左
右ふ



眉
ハ左右の眼の
上み生



眼

の内ふ何物
有りや

眼球

あり之即ち森羅
萬像を視るの
具備あり

瞼

ハ上瞼下
瞼有りて
眼球を蔽

ひ護了為
の具へ

瞳子

ハ眼球の中心
之みて萬物と見
るなり

睫毛

ハ物

眼中ふ入
為の具へ



内眦

ハ眼の内
角といふ

外眦

ハ眼の外
角と



涙液

ハ眼を濡
れよめあり
又悲しき時
も出る

鼻
ハ總て物の香
と嗅分る為の
具備あり

鼻竅

ハ二ツ有りて
呼吸又物と
嗅ぎ或ハ涕痰

の出した
鼻

鼻梁

ハ鼻の中心
の高き所と



人中

ハ鼻の下
唇

呼吸を通過之と
氣道といふなり

ハ咽の周
ハ喉の周
ハ咽の周
ハ喉の周

ハ咽の周
ハ喉の周
ハ咽の周
ハ喉の周

るものでクビノクボ
いふ
なり

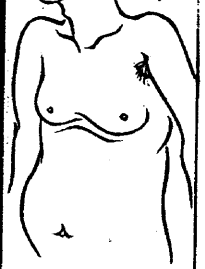
ハ頸の後の必
ハ頸の後の必
ハ頸の後の必
ハ頸の後の必



ハ頸の兩
側とい

第二章

ハ身体の中
ハ心部を
ハ心部を



ハ胸の上部を咽
ハ胸の上部を咽
ハ胸の上部を咽
ハ胸の上部を咽

ハ胸の左
ハ胸の右
ハ胸の左
ハ胸の右



ハ胸の上界の
ハ胸の上界の
ハ胸の上界の
ハ胸の上界の



ハ胸の左
ハ胸の右
ハ胸の左
ハ胸の右

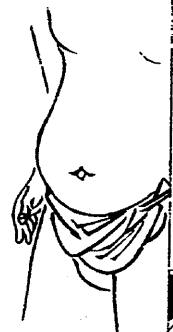
ハ胸の左
ハ胸の右
ハ胸の左
ハ胸の右

ハ胸の上下腹の
ハ胸の上下腹の
ハ胸の上下腹の
ハ胸の上下腹の



ハ胸の下部を咽
ハ胸の下部を咽
ハ胸の下部を咽
ハ胸の下部を咽

ハ三部を區別し
ハ三部を區別し
ハ三部を區別し
ハ三部を區別し



小腹 コハラ ハ臍より下

脇腹 ワキハラ ハ臍の脇

いふ ホヅ ハ腹の中心より其四寸許といふなり
赤子胎内より其のとき臍帯として母の血と
輸り込みて此より胎内の子と養ふとる脈

親の血と分るとりよハ
即ち之なり
脊 セボ子 ハ脊推骨といふ即ち軀

背 ハイ ハ胸の後
の外部を
いふなり

脊 セボ子 ハ脊推骨といふ即ち軀
の幹にして諸臓を保
腰 エウ ハ腹の左右より



腕骨 シリノホ子 ハ腰の兩傍のシリヌタ
ハ臍骨
或ハ尻とも書ク
臀肉 シラ ハ臍の下
肉の厚

き所といシリノアナ
ふなり
肛門 コウモン ハ尻の穴にて大便の通ぐ
陰莖 インキヤウ ハ男の
兩肢の間
肛門

の前より
小便の通ぐ
所なり

陰毛 インモウ ハ陰莖の周
圍に生じ
る毛といふ

陰囊 インナウ ハ陰莖の下
付ものなり最も
辜丸 コウワン ハ陰囊の中より
二ツの球きも

陰門

メメコ
ハ女の前
といふ
なり

第三章

四肢

ハ手足を
いふ
なり

手

ハ腕より連ふる所の左右と
いふ



肱

ハ肩より連ふる
腕の上の一節
といふなり

肘

ハ手の中央の曲
る節といふ
なり



臂

ハ肘より腕
といふなり

腕

ハ臂のさき
といふ
なり



肘

ハ肩より連ふる
際といふなり

掌

ハ腕より連ふる
内部といふなり

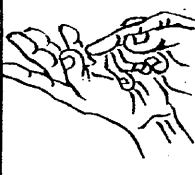


指

ハ掌より連ふる先といふ
即ち五指あり左右合
して十指なり

爪

ハ手の外
部といふ



の先より之總
身の筋の餘り
なり

手脊

ハ掌の外
部といふ
なり



手紋

ハ掌の筋の種々
いふなり

拳

ハ手の五指を
握りたる状
ちといふなり



又指イナク一々オホ名ナ稱ナありや

拇指オホユビ



又オホ大オホ指オホ或オホハ巨指オホといふ

食ヒトサシ

指ユビ



或オホハ第ダイ二指ニシといふ

中指ナカユビ



或オホハ將オホ指オホといふ

無名指ナシユビ



或オホハ紅ベニ指ササ指ササといふ

小指コユビ

ハ端オホの指オホといふ

爪ツメ甲カウ

手テ足アシとも爪ツメのオホ外ウチ部ベといふ

爪ツメ甲カウといふ

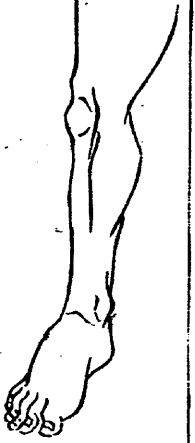
○第四章

脚アシ

ハ腰オシより左サ右ミふオシ連ツあツるオシなり

腿フトモ

ハ脚アシのオシ上部ウベといふ



辨ウチハオシ兩オシ腿オシの間オシといふ



膝ヒザ

ハ腿オシのオシ下オシの折オシ曲オシとオシヒツオシカオシミオシといふ

脛ヒザ

ハ膝ヒザの後オシ部オシといふ

脛ヒザ

ハ膝ヒザのオシ下オシ部オシといふ



腓ヒ

ハ脛ヒの後オシ部オシといふ

踝クル

ハ脛の下の端内
外の隆起所を
いふなり



ムカハギ
ハ俗小脛骨
といふ内臑
外臑あり

ハ俗小脛骨
といふ内臑
外臑あり

アシノウ
ハ脛の下に連なる外部といふ

ハ脛の下に連なる外部といふ

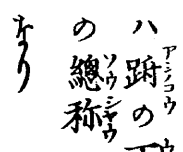


クビス
ハ俗小脛骨
といふ内臑
外臑あり

ハ俗小脛骨
といふ内臑
外臑あり



アシノウ
ハ脛の下に連なる外部といふ



ツチフマズ
ハ蹠の中央の

ハ蹠の中央の

アシノウ
ハ脛の下に連なる外部といふ

ハ脛の下の端内
外の隆起所を
いふなり

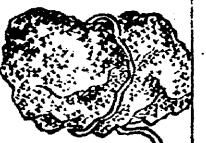
第五 章

五臟六腑

ハ何事も胸腹の内
列位各其主とす

ハ胸の下の

カミセホ子
り上脊骨の九の推の下
付き左三葉右四葉あり總
て七葉あり即ち酸と好む



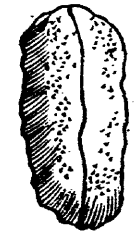
ハ心



ハ肺の管の下臑

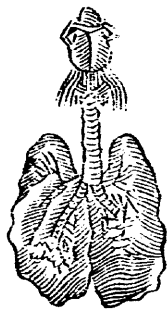
膜の上を在りて脊骨五の推
に附き其状を圓くし
て蓮蓋の如く四ツの孔ありて四臟に通じりと主
了即ち苦と好む神明と出
衆理を具備ふ

ハ脾



ハ胃と膜を同ふして胃の上の左に附く
其状を刀鎌の如く十一推の下に當り倉庫
の官ありて五味と出
四臟を養ふ即ち甘

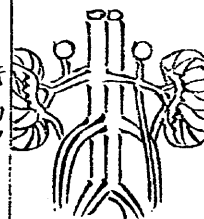
好む 肺



ハ其形ち六葉兩耳とも四
方ハ無き中ハ廿四の孔何
り相傳の官ふして諸臟の

氣を回ら
即ち辛と
好む

腎

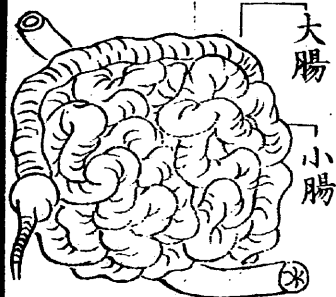


ハ兩枚ふして十四の推
の左右ふり其状ち豆
豆の如くふて相並ひ曲

りて脊骨の兩傍ふ附く伎巧を
出ー精神の舎了所性命の
根あり即ち鹹と好む以上を五臟と云

大腸

ハ臍ふ當りて左ふ巡了事
十六曲了傳道の官ふして
變化あるを主了廣腸直腸



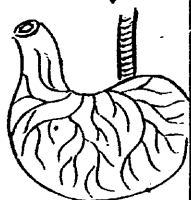
を徑て肛門より
大便とありて
出

小腸

ハ上の口ハ臍の上二寸ふ
り臍ち胃の下口ハ大腸
の上口あり之を蘭門とい

ふ後ハ脊ふ附き前ハ
臍の上ふはく即ち大
小便を分ち出れを主了

胃



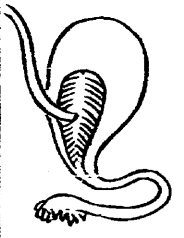
ハ上の口を賁
門といふ上臍
ふ當り下口を

幽門といふ下臍ふ當り中ハ中臍ふ
當り倉廩の官ふして五味を出し
水穀氣血の海とい

膀胱

ハ十九の
推ふ當り
腎の下大

腸の前ふり下口ふりて上口あり小腸の下口ハ膀胱の
上際あり州都の官ふして津液を藏む小腸より出れ所の
水液ハ膀胱の上より滲ぎ入て小便とありて出るなり



三焦

ハ肝の上焦中焦下焦之と三焦
といふ人の三元の氣あり總て
五臟六腑營衛経絡内外左右上

下の氣を主る決瀆の官み
して水道のいづる所



ハ肝の短き
葉の間み
り中正の官

○第六章

よして物を定め
決瀆する事と
主るより以上と六腑と云

五官

ハ視官 聽官 味
官 鼻官 觸官

視官

ハ眼み物色
形像大長
短動靜遠近

事と見る事と主
ると故に視官
といふ

聽官

ハ耳み音聲を聞く
事と主ると故に
聽官といふ

味

ハ口み飲食五果と味
ひ知る事と主ると故
に味官といふ

鼻官

ハ鼻み萬の
物の香と嗅
ぐ事と主ると

る故に觸官
といふ

觸官

ハ身體の皮膚物み觸
を痛痒寒熱を知ると
故に觸官といふ

五體

とハ筋脉肉骨スガ
皮膚と
ハ絡脉あり肝の臟
ハ筋の主る所みして
ハ色青

脈

の七表
ハ浮沈
滑實弦

緊洪といふ八裏ハ
微沉緩瀦遲伏濡弱
といふなり

肉ハ纖維として細き筋ホ子ハ肉
の疊々重りて出
来たるものなり

骨ハ肉
核ホ

り頭身手足の四體
動靜ふん事と主
とあはれものなり

皮ハ
ハ上皮薄く其下皮厚く二層ホ
ありて骨肉の上と覆ハ包む

毛
ハ一身の血の余り皮肉
の外ホ生ズるものなり
即ち肺の主とす所なり

九竅
目ニ多
耳ニ多
鼻穴ニ多
口
大便穴

小便穴
身體の要害
ハカラダ

兩眼
人中鼻の
鳩尾
脇骨
之何きも

危所
動脈
左乳の下
脊の傍
食指間
肘の内傍
腕の中央
足

頸の左右
取の前
大指と
外

踵の上
精神
ハ頭腦の中ホ舍りあり
其傳ハ了道と神徑と

肌
ハ皮
内の

肉とつよハダハ
外といふ
血
ハ皮肉の中と循環
て總身ホ至らざる所
ありハ氣血ホ因て

生命と保つなり

画引人體問答大尾

画

三

K110-4.3

明治九年一月五日御届
同 二月 刻成 定價七錢五厘

著者画人

大阪第一大区十五小區
道修町四丁目十三番地
松川 半山

出版人

大阪第一大区十七小區
備後町四丁目十一番地
梅原 龜七